

安全で楽しい冬休みを。

12月を迎えています。本格的な冬、ところによっては雪の季節の到来です。この季節、冷たく澄んだ空気の中、夜空に高く明るく光る月は、見ているだけで心が洗われるような気がします。



本校は、23日に終業式を行い、翌日からは冬季休業（冬休み）になります。今年の冬休みは、15日間となっていますが、クリスマスやお正月の楽しい行事が続きます。夜更かしをすることもあるかもしれません。生活のリズムも乱れがちです。外出する機会もあると思います。最近特に、子どもたちが思わぬ事件や事故に巻き込まれることも数多くあり、たいへん気になるところです。

学校では、特に以下の点を重点的に指導しています。ご家庭でも、十分留意していただき、子どもたちが安全で楽しい冬休みを過ごすことができますようよろしくお願いいたします。

- 規則正しい生活を心がけ、健康を守る
- 事故や犯罪から身を守る
- 家庭学習、家読に取り組む
- 冬休みならではの経験をする

詳細については、「心に残る有意義な冬休みするために」としておたよりを発行します。是非親子でご覧いただき、家庭での話題にしていきたいと思っております。

年明けには、全校の子どもたちが、冬休みの思い出をたくさんもって、寒さに負けず元気に登校してきてくれることを楽しみにしています。

親子の対話をもちましよう。

この時期は師走と呼ばれ、慌ただしさが増えますが、新年を迎える期待が膨らむ時期でもあります。新年を迎えることで、普段にはない様々な行事が行われることと思います。1年の中でも特別なこの時期を、家庭で親子のコミュニケーションを増やす時期にしてみたいかがでしょうか。「最近では親子の対話が減少した。」という話をよく耳にします。ゲームやスマホにとりつかれたように熱中する子どもたち、仕事で忙しくストレスを抱える大人たち、社会全体が変化し、親子の時間を奪っているのかもしれない。この身延の地域は、比較的子育てには恵まれているとは思いますが、それでも大きな波の中で変化があることと思います。

様々な伝統的な行事が多い年末・年始です。行事に参加しながら、親子の対話を増やしていけると良いと思います。また親子だけでなく、地域の人々とふれあう機会にもなります。年末・年始の地域に伝わる行事の意味や取り組みを知り、地域に目を向けることは、未来を生きていく子どもたちにとって大切なことです。

子どもたちに、家族の一員として、家庭の仕事や体験活動をさせ、親子の対話の時間をたくさん持ちましよう。そして、家族が心を一つにして、新しい年を迎える期待を子どもたちに持たせましよう。それは、子どもたちが大人になったとき、幸せに生きていくことにつながると思うのです。



防災の意識を高める、 火災に備えた避難訓練を行いました。

12月4日(水)に、峡南消防本部中部消防署の皆さんをお招きして、地震発生後の火災を想定した避難訓練がありました。消防署の皆さんに発煙筒を炊いていただき、実際の火災さながらに真剣な訓練ができました。今回は、火災のために避難路が制限されることが訓練のポイントでしたが、状況に合わせて適切な対応を取ることが改めて確認できました。また、6年生が水消火器を使い、消火器の使い方を学ぶ場面もありました。訓練後は、消防署の方から講評をいただき、子どもたちの話を集中して聞く様子をほめていただきました。防災の意識を高めてつなげ、いざという時のために、備えていきたいと思ひます。



気持ちを込め、「書き初め」練習に取り組んでいます。

正月を控え、書き初めに取り組む時期を迎えています。昨年に引き続き、角打在住の望月文子先生に來校していただき、3日間にわたって各教室で「書き初め」練習の指導をしていただきました。練習に臨む教室はほどよい緊張感の中で、子どもたちが熱心に練習していました。「書き初め」



には、新年を迎え、新たな気持ちでこの1年を過ごすための自分の思いを文字にする、という意味があります。姿勢を正し、一文字一文字丁寧に気持ちを込めて書いていってほしいと思ひます。3学期には、再び望月先生に指導をお願いし、それまでの練習の成果を発揮する機会があります。子どもたちの頑張りを期待し、楽しみにしています。

地域の歴史を知る、4年生「大野せぎ」の学習

4年生の社会科では、地域の先人達の努力や工夫により、私たちの現在の生活があることを学ぶ学習が行われます。本校では、約300年前、日寛上人が波木井川の水を大野山にトンネルを掘って引いた「大野せぎ」の学習をしています。先日4年生が実際に地域を歩いて、現地を見ながら学ぶフィールドワークに出かけました。講師は、教育委員会教育長の保坂新一先生(大野在住)です。現在は新しいトンネル工事も行われていて、工事関係の方々も説明に駆けつけてくださいました。子どもたちは、お話を聞きながら、せぎを繋ぐサイホンのしぐみに興味をもったり、当時の人々の苦勞や努力、願いを想像したりしていました。身延小の学校教育には、地域の方々がたくさん関わってくださっています。たいへんありがたく感じています。今後も、地域に支えられながら、地域とともに歩む学校でありたいと思ひています。

